

Tom's



特集

地域に生きる富山大学

富大生に聞きました! 富大のルーツを訪ねる
富山弁 しゃべらんまいけ 大学×地域コラボ集!
富山大学同窓会連合会



ブリ



ますずし



細工
かまぼこ



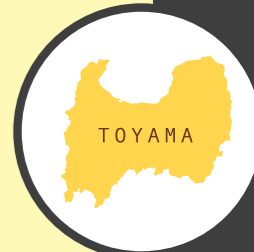
富山
ライトレール



雨晴海岸

研究者紹介
ハロー先輩
学内探訪「民族薬物資料館」
Tom's薬箱「うつ病とその治療薬」
Tom'sギャラリー

TOYAMA



富山のどこが好きですか？

富大生に聞きました！ 富山の「どこが好き？」「何を望む？」

地方の活性化が求められる今、教育・研究機関である大学の地域貢献は、ますます重要になってきています。富山大学と地域との関わりをさまざまな角度から紹介し、地域のために大学は何ができるのかを考えていきたいと思います。まずは富大生に、富山に対する思いを聞いてみました。

取材結果

ほかの学生への取材結果は以下の通りです。

○富山のどこが好きですか？

方言が可愛い。 空がめっちゃきれい (兵庫県)

「やちゃ」とか「なーん」とか (長野県)

地域の付き合いが多くて好印象 (京都府)

海があり、星がたくさん出る
ロケーションが素敵 (京都府)

アートギャラリーが多い (京都府)

ますずし (神奈川県)

台風・地震が少ない (石川県)

細工かまぼこと煮たらこ (石川県)

人が親切で温かみがある (新潟県)

騒音が少なく夜静か (奈良県、石川県、富山県)

時間の流れがゆっくり (富山県)

富山ライトレール (徳島県)

○富山に何を望みますか？

新幹線が早く通ってほしい (兵庫県)

公共交通の充実 (京都府)

おしゃれで若者好みの街になって (新潟県、富山県)

電車・バスの本数を増やしてほしい (富山県)

駅前にスクランブル交差点と巨大スクリーンを (富山県)

英語教育の強化 (富山県)
雪がもっと少なければ… (京都府)

取材を終えて

やはりというか、「自然」「食」について好印象を持っている学生が目立ちました。県外出身の学生を含め、富山の一住民として日々の生活で感じていることを答えてくれました。望むことには「交通の利便性」と「天気」に関するコメントが多く見られ、若者から見た富山の姿が浮き彫りになり、とても参考になりました。



※ 黒い背景は出身都道府県

富山に何を望みますか？





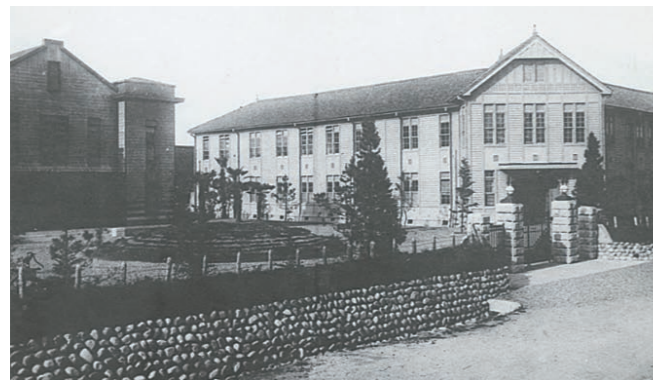
富山薬学専門学校

明治維新とともに西洋の医学、薬学が取り入れられると、売薬会社、売薬業者などから薬学校設立の声が高まりました。明治26年、売薬業者、富山県薬剤師会、薬種店など売薬業界挙げての協力の下に富山市梅沢町広貫堂前に共立富山薬学校の校舎を新築し、翌27年に授業が開始されました。明治30年に市立富山薬学校と改称し、学校の充実を求めた売薬業者らの熱心な運動の結果、明治43年、全国で初めての薬学専門学校として富山県立薬学専門学校が誕生。大正9年に官立の富山薬学専門学校に引き継がれ、昭和24年に設置された新制富山大学薬学部の前身となりました。



富山薬学専門学校の校舎

▶ S24 薬学部



高岡高等商業学校の校舎

▶ S24 工学部

▶ S28 経済学部

高岡高等商業学校・高岡工業専門学校

大正13年、高岡に全国で13番目の官立高等商業学校が設立され、地元は大変な喜びに包まれました。銅器や漆器の特産も含め高岡の商業が長い伝統にはぐまれていたことが商業高等学校の立地条件にかなっていたと思われます。その後、戦時統制経済の情勢と工業技術者不足に対する国家的要請により、昭和19年、高岡工業専門学校となり、同24年、当時の校舎を使って新制富山大学工学部が誕生しました。そして高岡高商を継ぐ経済学科は富山大学文理学部内におかれ、昭和28年には経済学部として独立しました。

高岡高等商業学校、高岡工業専門学校から工学部へと受け継がれたその場所は、昭和59年に工学部が五福キャンパスに移転した後、現在、県立高岡高等学校になっています。



旧制富山高等学校の校舎

旧制富山高等学校

大正の頃、富山県における教育施設は、上級学校は富山薬学専門学校の1校があるのみで、全国的に見ても上級学校が不足していました。上新川郡東岩瀬町で代々廻船業を営み、北陸屈指の富豪であった馬場家はこれを嘆き、大正12年、馬場はる氏の多額の寄附により7年制の旧制富山高等学校(県立)が現在の富山市蓮町に誕生しました。旧制富山高等学校は、昭和18年には官立に移管され、昭和24年の新制富山大学における文理学部(人文学部、理学部の前身)の母体となりました。

現在、その跡地は「馬場記念公園」となっており、公園内には当時の位置のまま正門が保存されています。

▶ S24 文理学部

▶ S52 人文学部・理学部



富山師範学校の西田地方校舎

富山師範学校・富山青年師範学校

「学制」が公布された翌年の明治6年、小学校教員養成講習所として富山市北新町に開設されたのが富山師範学校の始まりです。

第一次大戦後、国力の増強を図るため、実業教育を担当する教員の養成を目的に大正14年、富山師範学校に併設して富山県立実業補習学校教員養成所が設置され、昭和19年、富山青年師範学校に昇格しました。

昭和24年に新制富山大学が発足した際、富山師範学校と富山青年師範学校は統合され、富山大学教育学部となりました。

▶ S24 教育学部

▶ H17 人間発達科学部

since1875

富大のルーツを訪ねる

地域とともに歩み、発展してきた富山大学。その前身となった学校の歴史を取り上げ、現在に至るまでの経緯を紹介いたします。

富山県の高等教育機関として、これまで多くの人材を世に送り出してきた富山大学。昭和24年、新制の国立大学が設立されることになり、旧制富山高等学校・富山師範学校・富山青年師範学校・富山薬学専門学校・高岡工業専門学校を包括する形で旧富山大学が発足しました。その後、昭和50年に富山医科薬科大学、同58年に高岡短期大学が開学。そして平成17

年10月に三つの大学が統合して現在の富山大学となりました。大学の歴史をたどっていくと、創設から現在に至るまで、地域の方々の熱意と努力によって支えられ、守られてきたことが分かります。そして地域の熱い期待に応え、大学は継承・発展してきました。前身となった学校の歴史をひもとき、大学の価値を再認識しましょう。

[略年表]

| | |
|-------------|--|
| 明治8年(1875) | 新川県師範学校発足(教育学部の前身) |
| 明治26年(1893) | 共立富山薬学校発足(薬学部の前身) |
| 大正12年(1923) | 旧制富山高等学校発足(人文学部、理学部の前身) |
| 大正13年(1924) | 高岡高等商業学校発足(経済学部の前身) |
| 昭和19年(1944) | 高岡工業専門学校発足(工学部の前身) |
| 昭和24年(1949) | 富山大学発足(文理学部、教育学部、薬学部、工学部) |
| 昭和28年(1953) | 経済学部設置(文理学部より独立) |
| 昭和50年(1975) | 富山医科薬科大学開学(医学部設置) |
| 昭和51年(1976) | 富山医科薬科大学に薬学部設置(富山大学より移行) |
| 昭和52年(1977) | 人文学部、理学部設置(文理学部を改組) |
| 昭和58年(1983) | 高岡短期大学開学 |
| 平成16年(2004) | 国立大学法人法の規定により3大学が国立大学法人となる |
| 平成17年(2005) | 富山大学、富山医科薬科大学、高岡短期大学を再編・統合し、現在の富山大学となる。芸術文化学部設置、人間発達科学部設置(教育学部を改組) |

ヘルン文庫

ラファカディオ・ハーン(小泉八雲)の貴重な蔵書

『耳なし芳二』『雪女』などの怪談で有名なラファカディオ・ハーン(1850~1904)は明治23年に来日し、松江・熊本で英語教師をした後、神戸で新聞記者として働き、帰化して名前を小泉八雲と改めました。その後は東京帝国大学の講師となり、その傍らで文筆活動にも精力的に取り組みました。ハーン亡き後、蔵書は小泉家で保存されてきましたが、大正12年の関東大震災で貴重な文献が焼失したことから、小泉家では安全に保管できる大学へ譲りたいと考えていました。

当時、旧制富山高等学校の創設準備に奔走し、後に初代校長となった南日恒太郎氏は、ハーンの高弟でもあった実弟の田部隆次氏からこの話を聞き、新設の富山高等学校に全国から優秀な研究者を集めるには何としても確保したい蔵書であると思いき、ぜひとも譲渡してくれるよう依頼しました。そして南日氏は馬場はる氏に購入資金の援助を懇請し、その結果、馬場家が小

「富山八雲会」をご存知ですか?

ヘルン文庫を守り伝えるため、ハーンとその作品に関する講演会の開催や、関係資料の調査を行っています。ヘルン文庫の一般公開のガイドにもご協力いただいています。



晩年の大作「神国日本」の草稿

詳しくは<http://www.lib.u-toyama.ac.jp/chuo/hearnlib.html>



過去と未来の架け橋に

富山弁

しゃべらんまいけ

みんな大好き富山弁。その不思議な魅力について、中井先生がたっぷり教えちゃいます。さっそく読んでみられ！



人文学部准教授 中井精一 ながい・せいいち

地域の協力があって できる研究

いつも学生たちに言っていることなのですが、方言の研究というのは、調査に協力してくれる地域の人たちがいて、はじめて成り立ちます。わたしたちは、ほかの分野以上に、協力してくれた人や地域社会に対して大きな責任を負い、その成果を社会に還元するよう努力しなければなりません。

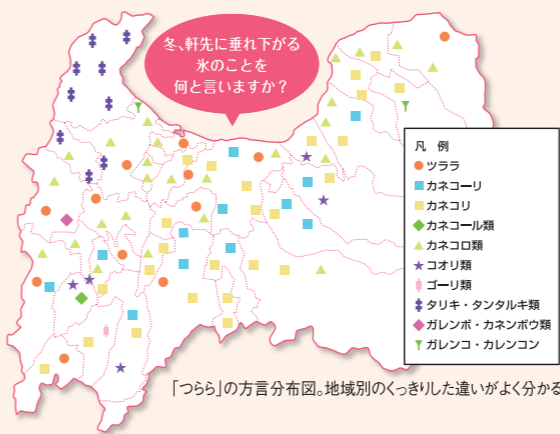
方言はやさしさを愛をつなぐ

方言の調査では、富山県内の多くの方々とお話をする機会があります。最近では、富山県の方々が、地域社会や日々の暮らしに高い満足感を持っていて、これまでの伝統的な暮らしを今後も大切に守っていきたいという思いが方言に対する意識につながっているのではないかと。そんなことを思うようになりました。

細かい地域的バリエーション

富山県内は呉羽山を境に呉東と呉西という地域区分で考えることがよくありますが、方言はより細かく分かれていて、地域的バリエーションを持っています。例えば富山市で「行かれた」「見られた」とい

2000年「富山県言語動態地図」 富山大学 人文学部中井研究室 作成



「つらら」の方言分布図。地域別のくっきりした違いがよく分かる

細かな目配りがされた 富山県方言番付

今から4年ほど前、富山市在住の方言研究者・養島良二先生と私で富山県方言番付を作成しました。この番付は、富山の代表的な方言を300語程度掲載しているのですが、それ以外にも、「あじゃあじゃ」「いい加減」、「あわあわ」(しまりがない)とか、「まこと」と「まこと」(ぼかぼか)するといったオノマトペ(擬態語・擬声語)がたくさん記載されています。また、食べ物についても、「かまぼこ」のことを「はべん」や「くずし」と言ったり、「寒天料理」のことを「べんこら」や「えびす」と言うことが紹介されています。さらに、富山湾の魚介類をたくさん並べ、「ブリの幼魚」を「フクラギ」や「ツバイソ」、「コズクラ」と言うとか、「ホタルイカ」のことを「マツイカ」、「カジキマグロ」のことを「サス」と言うとか、ほかの方言番付にはない細かな目配りがされています。

かつての都の言葉が 今も生きる富山弁

「きのどくな」「や」「だら」は富山県の人が多用するのですが、北陸全体でも使用が見られます。また塩味が濃い時に使われる「くどい」も北陸全体で見られ、富山県の方言はやはり北陸方言という大きな地

域的単位で括られることが分かります。

一方、賢いことを「はしかい」、老けて見えることを「ひねくらくらく」、うらやましいことを「けなるい」、「いこと」を「うい」かわいそうなことを「いこと」というような言い方は、西日本の各地に散見している方言であり、かつては京都や大阪を中心とした都の言葉でした。

方言研究の第一人者である故徳川宗賢先生はかつて「方言は1年で9200mから1km前進する」という仮説を立てられましたが、富山と京都は300km程度の距離がありますので、少なくとも16世紀の後半には京都からこちらに向かって使用の波が拡大し始めたのではないかと推定がされます。このようにかつて京都や

大阪の中心部で使われていた古語が、富山弁の大きな部分を占めるという特徴があるのです。

中井先生監修の「方言番付」。これであなたも富山弁をマスター?!

新富山市域で 調査中

以上、富山県の方言の特徴を簡単に説明しましたが、分からないことがまだまだたくさんあって、研究室では全国各地で方言の聞き取りを計画するとともに、現在は新富山市域で調査を実施しています。学生と一緒にみなさんのもとへおじゃまし、お話をうかがえる日を楽しみにしています。



聞き取り調査に協力いただいた方に進呈するシール。「富山大学人文学部中井研究室」と書いてある



聞き取り調査の様子。地域の方とのコミュニケーションが とても重要



まち歩きコース企画中

若い感性がまちの魅力をプロモート

富山市シティプロモーション推進事業【富山市と連携】

富山大学の学生が「都市(まち)の魅力を対外的に宣伝」し、富山市を積極的に売り込む「シティプロモーション」の取り組みが始まっています。これは2008年10月に富山大学と富山市が包括協定を結んで、まちづくりや文化、環境、教育などの分野で連携し、地域振興を図るために始めた取り組みの一つで、学生たちの若い感性が

まちに活気をもたらし、富山の魅力を私たちに再認識させてくれることが期待されます。

学生たちは、富山市内を回って現状と課題を整理し、まちなか活性化やまち歩きコースの原案を作成中です。来年春、その企画が実現した姿を目にすることができるでしょう。



池田屋安兵衛商店の見学



総曲輪・クラフトプラザの視察

富山ゆかりの文学に触れる

ふるさと文学県民講座【富山県と連携】

富山ゆかりの作家、作品を紹介して、郷土の歴史や文化を再認識し、継承、発展させていくための取り組みが始まっています。富山大学では、富山県との連携協力事業として一般向けに講座を開講し、教員たちが「ふるさと文学」の魅力を紹介しました。

『万葉集』や『ドラえもん』など、富山にゆかりのある作品に親しむ楽しさは、多くの人を惹き付けます。

最終回の講座では、映画となった『劔岳(点の記)』を取り上げ、作品の中での時代背景や主人公が辿った道を地図で紹介。多くの方々にご参加いただきました。



「地図で読み解く『劔岳(点の記)』講座」

ふるさと文学県民講座

- 8月2日
「富山の女性文学の先駆者・小寺菊子を読む」
講師：金子幸代 富山大学人文学部教授
- 8月9日
「万葉集の時代をよむ」
講師：小野 寛 高岡市万葉歴史館館長
- 8月23日
「ドラえもんマンガの魅力を深層を読む」
講師：横山泰行 富山大学名誉教授
- 8月30日
「地図で読み解く『劔岳(点の記)』」
講師：大西宏治 富山大学人文学部准教授

新技術のポスター展示会場



地域産業とのコラボで夢を広げる

コラボフェスタ2009

地域との連携強化に資するイベントとして、「コラボフェスタ2009」を今年7月にオックスカナルパークホテル富山で開催しました。地域連携・地域づくりに関するシンポジウム、特別講演や新技術の発表、学生による「研究夢プランコンテスト」や富山大学が持つ学術的な標本等を公開した「富山大学博物館」など、各講演や発表、展示に多くの方々に関心を示し、活発な討論や意見交換が行われました。また、参加者による情報交換会もあり、地域連携の夢などを語り合いました。

富山大学では、昨年、地域連携推進機構の再編・統合を行いました。地域社会に対する窓口として、地域の特性を生かした産業育成、公開講座などによる市民生活の充実、地域課題解決への先導的役割を果たしています。

富山の豊かな自然環境を生かして

地域再生塾「高度差4000」

標高3000mの立山連峰から水深1000mの富山湾まで、わずか水平方向100kmにある自然「高度差4000」。この世界に類を見ない富山の豊かな自然環境を守り、はぐくみ、活用することで、地域再生を担う人材を育成する事業です。

今年度は、地域の行政を担う魚津市職員対象の人材養成講座と、循環型社会の構築に結びつく地域づくりを実践する企業人・社会起業家の育成のため産・学・官・金融・メディアが協力し合って行う人材養成講座の2タイプの講座を開講しています。

各講座ともに「環境論」「地域づくり論」「コミュニティビジネス論」などの講義と演習を行い、地域マネジメント人材を育てていきます。



講義風景

富山大学ではさまざまな地域連携事業を展開しています。その中には、研究成果を発信して地域産業との連携を図る事業や、地域再生を担う人材の育成、自治体等との連携による地域活性化に向けた取り組みなどがあります。また、地域の方々を対象にした講座や学生が企画したイベント開催を通して、大学の教育・研究活動を積極的に

発信する機会をつくっています。地域との連携「コラボレーション」は、大学の教育と研究を活性化するとともに、地域社会に新たな発見を提供しています。地域の方々には大学が実施する各事業を通して、教育研究に触れていただき、新たな事業展開へのヒントや学びの楽しさを感じてほしいと考えています。地域の期待に応えていくため、富山大学はこれからも地域とともに歩んでいきます。

地域社会へ成果を還元

大学 × 地域 コラボ集！

大学と地域社会が協力し合うことで、より良い成果が期待できます。最近の連携事業をピックアップしました。

連携から新しい発見が生まれる



富山大学同窓会連合会は2007年10月6日、学部横断的な交流を深めるとともに、同窓の連帯によって総合力を結集し、富山大学の一層の発展に寄与し、社会に貢献することを目的に、人文学部同窓会、富山大学教育学窓会、越嶺会、理学部同窓会、医学部同窓会、富山薬窓会、仰岳会、創己会および富山大学によって設立されました。同窓会連合会の会員総数は2009年度に8万人を超えています。

現在までの活動は、講演会やホームカミングデー、支部の集いなどの活動を中心に、同窓会員の交流・親睦を図り、富山大学との連携協力を推進しています。

初代会長は中尾哲雄氏(経済学部第8回、1960年卒、元インテック会長、ITホールディングス会長)で、2009年7月には北野芳則氏(理学部第8回、1960年卒、元YKK株式会社代表取締役副会長)が会長に就任されました。

Message

私が富山大学同窓会連合会会長としてこれから実行し、また各同窓会にお願いしたいのは次の3点です。

- 1 富山大学が永く存続し、健全なる活動をこれからも行っていけるよう支援すること
- 2 伝統ある各学部の同窓会が自主的に活動し、同窓会自身が活性化していくため応援すること
- 3 全国にある各同窓会支部の方々には、富山大学の同窓生としての誇りを持ち、地域と一体となった活動を広げていただきたいこと

富山大学同窓会連合会の活動を通して、大学の活性化と発展に寄与し、さらに地域社会へ貢献していきたいと考えています。



富山大学同窓会連合会
会長 北野芳則



富山大学同窓会連合会総会
(2009年7月22日 於:カナルパークホテル富山)

「地方大学のあり方を考える」の
パネルディスカッション風景。
114人が参加し、親睦会も盛んでした

大学の発展に寄与し 社会に貢献する

多数の会員が所属する富山大学同窓会連合会。活動状況と今後の展望を紹介いたします。

富山大学同窓会連合会



同窓会連合会加盟組織

人文学部同窓会
会長 松平義廣
人文学部同窓会事務局(人文学部内)
TEL:076-445-6143
FAX:076-445-6142
e-Mail:alumni1@hmt.u-toyama.ac.jp

教育学部・人間発達科学部同窓会・富山大学教育学窓会
会長 長井真隆
富山大学教育学窓会事務局(富山県教育記念館5階)
〒930-0018 富山市千歳町1-5-1
TEL:076-431-6266 FAX:076-431-6419
e-Mail:gakuso@circus.ocn.ne.jp

経済学部同窓会・越嶺会
会長 高田憲一
越嶺会事務局(経済学部内)
TEL:076-445-6411
FAX:076-445-6419
e-Mail:etsurei@eco.u-toyama.ac.jp

理学部同窓会
会長 北野芳則
理学部同窓会事務局(理学部内)
TEL:076-445-6143
FAX:076-445-6142
e-Mail:alumni4@sci.u-toyama.ac.jp

医学部同窓会
会長 高田良久
医学部同窓会事務局(医学部内)
TEL:076-427-1185
FAX:076-427-1150
e-Mail:alumni@med.u-toyama.ac.jp

薬学部同窓会・富山薬窓会
会長 松井竹史
富山薬窓会事務局(薬学部内)
TEL:076-434-7149
FAX:076-427-1150
e-Mail:okude@pha.u-toyama.ac.jp

工学部同窓会・仰岳会
会長 棚邊一雄
仰岳会事務局(工学部内)
TEL:076-445-6704
FAX:076-445-6704
e-Mail:kougaku@eng.u-toyama.ac.jp

高岡短期大学・芸術文化学部同窓会・創己会
会長 寺口克己
創己会事務局(高岡キャンパス芸術文化系学務グループ内)
TEL:0766-25-9111
FAX:0766-25-9104

事務局

(担当理事) 富山大学理事・副学長 濟木育夫
富山大学同窓会連合会事務局 幹事長 高井正三
〒930-8555 富山市五福3190 TEL:076-445-6111 FAX:076-445-6014 E-Mail:alumni@ctg.u-toyama.ac.jp



富山駅前で開催 サテライト公開講座

一般の方々が利用しやすいよう、富山駅前CiCビルに場所を移して公開講座を開講しています。無料・単発が好評の理由のようで、年8回ある講座は毎回定員50人の受講生で会場が埋め尽くされます。この秋からは超音波の最新の研究と可視化技術などの紹介、環境芸術などの講座を開講します。このサテライト講座の受講が、生涯学習を始めのきっかけになるかもしれません。

子どもたちのふれあいを求めて スマイルフェスティバル

富山大学では毎年秋、キャンパスが地域の子供たちでいっぱいになる日があります。この「スマイルフェスティバル」は、富大生がお菓子作りや巨大迷路など、子どもが楽しめる企画を運営する大イベントです。評判が評判を呼び、毎年参加いただいている親子連れも多く、開催期間の2日間、キャンパスはにぎやかな歓声であふれます。

深夜まで準備してその日を迎える学生たちは「この行事に出会えて良かった」「子どもたちの笑顔を見たら疲れなんか忘れちゃった」と、満足感と達成感でいっぱいの様子です。このイベントを通して、学生たちは企画力や実行力を身につけていきます。



子どもたちの喜ぶ姿が原動力



聴こえるかな?



お菓子の家と一緒に作ろう!

地域の方々にご参加いただきたい事業はまだあります。
ぜひお気軽にお問い合わせください!

大学院医学薬学研究部 教授

田村 須賀子

たむら・すがこ

地域
そのものを
健康に



地域看護の活動を学術的に明確にし 社会的な位置付けを追究したい

地域に住む人々が健康な生活を送ることができるように、家庭訪問や保健事業の企画・実践・評価などを行うのが、地域看護の活動だ。活動領域には、自治体の保健所や保健センターに勤務する保健師の活動のほか、企業で働く労働者および家族を対象とする産業看護、学校などの教育機関に所属して、児童生徒・学生および教職員を対象とする学校看護、在宅で療養している方とその家族を対象とする在宅看護に大別できる。いずれも、人々の健康生活を守るための地道な仕事であり、息の長い活動が必要になる。

田村教授は、地域住民の健康管理・増進に携わる地域看護の仕事に長年手がけてきた。

しかし、保健師として地域を回る中で感じたのは、「自分を含めた多くの保健師さんが、先輩たちがどういう考えで、どういうことを大事にしながらかつてきたのか、明確にされないまま仕事をしている」ことだった。

実例研究で保健師を支援

「これでは、保健師活動が発展しない」という思いから、地域看護についての学術的な研究が必要だと感じ、保健師への聞き取り調査を開始する。約10年前のことだ。

地道な家庭訪問のやり方に変化を迫られている現代、先輩たちが行ってきた活動の良きところを生かしながら、これからの地域看護のあり方を考えていかなければならない。そのためにも、家庭訪問の実態を丁寧に取り、地域ごとに何を実践しているのか、情報の共有が必要となってくる。

「今は、保健師さんの活動をどう位置付けていくか認めてもらう段階。そのためにも、一つ一つの事例を研究し、学術的に知ってもらうことが、より良い実践を続けるための後方支援になる」と、田村教授は言う。

地域看護と災害看護

また、地域看護と密接な関係があるのが災害看護だ。「被災地の住民と向き合ったときに、昔ながらのコミュニティがしっかりしてい

るところでは、生活がうまく機能している。保健師は平常時から災害に耐える健康な地域づくりに取り組まねばならない」ことを実感したという。

病気の予防や、罹患しても社会参加が可能な社会をつくるには、地域の持つコミュニティの力を高めることが重要だ。「地域そのものは、10年働きかけて少し変われば良いというもの。派手さはない地味な仕事だが、目に見えない仕事をしている人ほど、いい仕事をしている。そういう人の社会的な位置付けを確立したい」。熱い思いが、地域看護に携わる人々を支える原動力となっている。



寄稿した専門誌「保健師ジャーナル」や、田村教授が手がけた地域看護学の教科書など

一人一人が個々の事件を考え 法律に関心を持ってほしい

裁判員制度が施行され、これまでプロの手に委ねられてきた裁判に、一般市民が参加する時代がきた。「裁判員は刑事司法のあり方を深く考えた上で、個々の事件に当たってもらいたい」と、渡邊講師は語る。

まずは客観的な基準を検証

死刑の適用基準をめぐる最近の動向、少年犯罪と少年法についてなど、渡邊講師は、これまでの犯罪と量刑を数値化することで、刑事司法を客観的にとらえてきた。「法律が現実にもどるに機能しているのかを客観的に見つけ、その上で共通の土台を構築して冷静に議論を進めるべき」というのが、そのスタンスだ。

中でも、「越えがたき谷」があるといわれる死刑と無期懲役刑の数量化基準に関する分析

少年犯罪は増加している??

また、近年問題にされること多い少年犯罪だが、統計的にみれば必ずしも増加や凶悪化しているわけではないことをご存じだろうか。少年犯罪は、センセーショナルに取り上げられがちだが、応報感情だけでは解決できない難しい面がある。「罪を犯した少年を矯正し、社会に戻すことができるよう処分適性を考えて判断すること」が大切なのだ。机上の空論では終わらない、現実の判例や統計に即した重みがある。

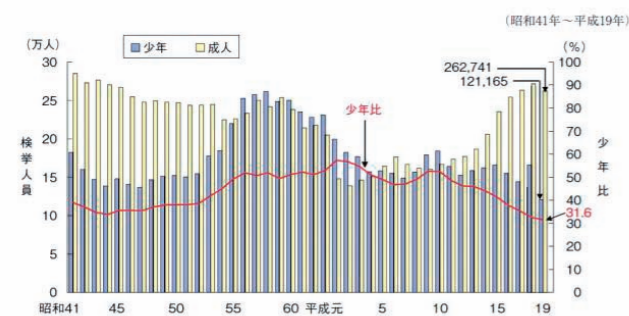
少年院入所者の多くが、児童虐待の経験者だという調査結果もある。ドイツの刑法学者リストの「最良の刑事政策は社会政策である」という言葉を、渡邊講師は研究を重ねる中で、改めて実感しているという。雇用や子育てを安定させることが、犯罪をなくす最も有効な手段」というその言葉は、刑事司法の重さを知る人の言葉として強く心に響く。

渡邊講師の願いは、「ワイドシヨ」を見ての感想でもいいので、犯罪について考える機会をつくってほしい」とのことだ。法律のあり方を真剣に考えるときがきている。



左/著作「少年の刑事責任 年齢と刑事責任能力の視点から」(専修大学出版局)
右/同著が評価され、犯罪学の分野で顕著な実績を残した者に贈られる「菊田クリミノロジー賞」を受賞

一般刑法犯の少年・成人別検挙人員・少年比の推移



注 1 警察庁の統計及び総務省統計局の人口資料による。
2 検法少年の補導人員を含む。

「少年犯罪と少年法」(渡邊講師の講演資料より) ※データは「犯罪白書」より引用
少年犯罪の増加・凶悪化が叫ばれているが、実際には、検挙人数は平成16年(2004)以降減少の傾向にある

法政策の機能を
実証的に
分析する

経済学部経営法学科 講師

渡邊 一弘

わたなべ・かずひろ





一般的には非公開ですが、年に1回、秋に一般公開日を行っています。現在は増改築中で、来春のオープンに向けて着々と準備が進んでいます。今後は月に1回程度、館の一部を公開する予定で、待ち遠しいかぎりです。

学内探訪

民族薬物資料館

約2万6000点の生薬標本を収蔵

杉谷キャンパスにある富山大学和漢医薬学総合研究所附属民族薬物研究センター民族薬物資料館には、日本漢方のみならず、世界の三大伝統医学といわれる中国医学、インド医学そしてユナニ医学など、世界各国の伝統医学で用いられる生薬の標本約2万6000点余りが保存・展示されています。もともとは1973年、当時五福にあった富山大学薬学部附属和漢研究施設化学応用部門の増設に伴い、生薬標本室を増設したものです。1978年に富山医科薬科大学附属和漢薬研究所が設置される際、旧富山大学から移行し、現在に至っています。

「民族薬物」とは、人間が生活する所には必ず薬があり、それらを世界の諸民族が使用している薬、という意味です。民族薬物の多くは、天然に産する植物、動物、鉱物に由来する生薬で、蒐集地域の広さや異物同名品(同一生薬名で基原の異なるもの)の多さは、蒐集の歴史とともに世界に類がなく、研究・教育用資料として国内外で高い評価を受けています。

原則的には非公開で



松永 豊 まつなが ゆかた
株式会社三和製玉 代表取締役社長
1986年3月 理学部卒業

どんな挫折や失敗も 前向きにとらえよう!

現在、鶏卵加工食品の製造業を営んでいます。在学中は「人生に無駄はない」「諦めなければ必ず成功する」「礼節を重んじることが大切である」ことを学びました。

岡山理科大学を中退し2年間の浪人の後、富山大学に入学したのですが、二度留年してしまい、大学を辞めようかと思ったこともありましたが、卒業まで頑張れたのは、理学部で出会った先生方の人柄に救われたからです。笹山雄一先生には、「元氣な朝の挨拶でその日が楽しくなる」「礼節は人間関係の潤滑油である」ことを教えていただき、潤滑油である「ことを教えていただき、道端齋先生のゼミでは、泣かされるほど叱責を受けたこともありましたが、私の無知や不注意で何度実験を失敗しても「失敗は成功の母」と温かく見守ってくださいました。また、新しい論文

業まで頑張れたのは、理学部で出会った先生方の人柄に救われたからです。笹山雄一先生には、「元氣な朝の挨拶でその日が楽しくなる」「礼節は人間関係の潤滑油である」ことを教えていただき、潤滑油である「ことを教えていただき、道端齋先生のゼミでは、泣かされるほど叱責を受けたこともありましたが、私の無知や不注意で何度実験を失敗しても「失敗は成功の母」と温かく見守ってくださいました。また、新しい論文

の理論が本当に正しいのかを疑い、検証することの必要性や、生物学はあらゆる理学に通じていることなどを再認識でき、とても濃密な時間を過ごすことができました。

最初の就職先では薬品の開発に携わり、業界関係者の予測に反した製品の開発に成功しました。これは学生時代に身につけた実践してきた検証のおかげだと思います。現在の仕事で、日持ちする玉子焼づくりや工場のエネルギー効率、新製品の開発などに、科学的手法を応用した解決策や理論が湧くようになったのも、大学時代の鍛錬のたまものと自負しています。

今では挫折も失敗も前向きにとらえ、それらはすべて成功へ繋がる要因であると考えるようになりました。学生の方には、叱責や失敗、挫折は骨折と同じでストレスを感じるほど強く遅くなることを信じて、優秀な研究者、企業家の道を歩んでほしいと思います。

Hello ハロ一先輩

田中 美夜 たなか みや
駅地下芸文ギャラリーマネージャー兼漆作家
2002年3月 高岡短期大学専攻科修了



仕事と制作は車の両輪 自分に合ったスタイルを

旧高岡短期大学での学生時代は、漆工芸の分野でさまざまな技法、技術を習得するため、授業以外の時間のほとんどを制作に充ててきました。漆は一つの作品を作り上げるのに多くの時間を費やすため、夏休みも正月も関係なく課題の制作に追われる忙しい日々を過ごしていたように記憶しています。

卒業後も「漆工芸を続けたい」という思いを持ち続け、働く傍らで作品づくり。今思えばあのころが一番先の見えな不安なときで、創作を続ける原動力となるのは自分の意志だけでした。その後、公募展への出品がきっかけで徐々にほかの作品展に誘われることが多くなりました。その交流の中で、作家同士や関係団体の方々のつながりが生まれ、今の仕事に生きています。

2007年からは高岡の駅地下芸文ギヤ

ラリーで勤務しています。オープンしてから2年半が経ちますが、2週間に一度展示替えを行うギャラリースペースは、作家や学生作品の展示のほか、ワークショップ、座談会なども行われ、企画を通して人と人が交わる場所にもなってきました。昼間はギャラリーでの仕事、夜は作品制作。そんな毎日の中で、日々変わっていく周りの環境とそのことで移り変わる自分の内面を一番素直に出せるかたちが作品だと思えるようになってきました。



花鳥 / 2008年 / 漆

自分を取り巻く環境はこれからも変わっていくと思いますが、仕事と制作、一方が一方を支えるスタイルはこれからも変わらず続けていけたらと思います。

うつ病とその治療薬

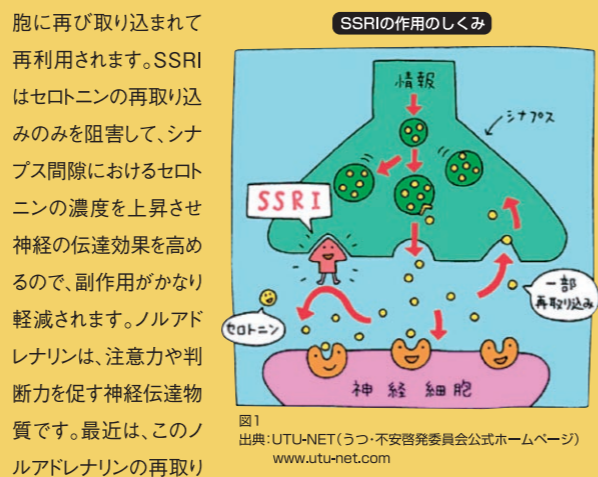
「うつ病で自殺」 富山県内急増 全国12位 (2009年5月14日付 北日本新聞夕刊より)

どんな気になる新聞記事がありましたか、ご覧になったでしょうか。2008年の富山県内での自殺率(人口10万人あたりの自殺者数)は30.1人で、全国12位になったそうです。その原因のトップは、うつ病などの健康問題でした。

うつ病は気分障害(感情障害)の一種で、抑うつ気分・意欲低下・不安・焦燥などの精神的症状と、食欲不振・不眠などの身体的症状を併発する精神疾患で、重症化すると自殺願望を伴います。患者数はここ数年増加しており、日本では約15人に1人が生涯の間にうつ病になると考えられています。また、男性より女性のほうが2倍ほどうつ病になりやすいといわれています。病因はまだはっきりしていませんが、長期にわたる精神的なストレスが主要因であることが多いようです。意外なことに、昇進や転居などの嬉しい出来事も誘因となる可能性があります。

うつ病の治療は休息と抗うつ薬の投与が原則で、精神療法も併せて行われます。一般に抗うつ薬の効果が表れるまでには数週間を要しますので、治療には3カ月以上かかります。また、再発を防ぐため、回復後も6カ月以上は薬を飲み続けることが必要です。抗うつ薬は副作用に注意しながら用いられます。これまでに多くの抗うつ薬が開発されていますが、以前よりよく使われてきた三環系や四環系抗うつ薬に加えて、現在は副作用の点からSSRI(選択的セロトニン再取り込み阻害薬)が使われることが多くなってきました。

うつ病の発症には、セロトニンとノルアドレナリンという神経伝達物質やその受容体が関与しているのではないかという説が有力です。セロトニンは落ち着きや安定感をもたらす神経伝達物質で、神経細胞からの刺激によりシナプス間隙に放出されます。放出されたセロトニンはシナプス後に存在する細胞の受容体に作用し刺激を伝達しますが、一部はシナプス前の細胞に再び取り込まれて再利用されます。SSRIはセロトニンの再取り込みのみを阻害して、シナプス間隙におけるセロトニンの濃度を上昇させ神経の伝達効果を高めるので、副作用がかなり軽減されます。ノルアドレナリンは、注意力や判断力を促す神経伝達物質です。最近、このノルアドレナリンの再取り込みも同時に阻害するSNRI(セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬)も開発されています。ただし、SSRIやSNRIは青少年に自殺念慮、自殺企図を増強させる恐れがあるため慎重な使用が求められます。これら以外にも抗うつ薬の開発が進められていますが、富山大学和漢医薬学総合研究所では、抗うつ効果を持つ漢方薬の検討が行われています。



うつ病の初期は、ちょっと体調が悪いかな?という状態が続きます。そんな時は無理に頑張らずに、スポーツや音楽などの趣味を楽しんで、心身を休めるように心掛けましょう。また、周りにうつ病の人がいるときは、不用意に励まさないこと、無理に誘わないこと、症状がひどいときには病気であることを伝えて医療機関の受診を勧めることなどが大切です。うつ病は治療すれば治る病気です。正しい知識を身につけて適切な治療を受けるようにしましょう。

(富山大学薬学部薬学科4年 安養仁 美)

※2008年度富山大学薬学部3年次総合薬学演習において調査・発表された内容を一部抜粋し、要約・加筆しました。

TOM'S 薬箱

Tom's Gallery

トムズ ギャラリー

『高岡城下 立体模型図』(芸術文化学部)



01 城下町の住民の生活が、ジオラマの所々にユーモラスに表現されている 02 外観を石垣とし、上部には1609年の高岡城下町を再現している 03 石垣の四隅に穴が開いており、のぞき込むと2009年現在の高岡が広がる 04 ジオラマ制作中の芸文生。造形作家、清河北斗氏(黒部市在住)に制作・技術指導を依頼し、2年生から4年生まで計8人の学生が制作にあたった

(芸術文化学部
講師 渡辺雅志)

2009年、高岡市は開町400年を迎えました。開町当初を再現した「高岡城下 立体模型図(ジオラマ)」は、芸術文化学部の学生が約2カ月をかけて制作し、高岡開町400年記念イベント「ものづくり城下町高岡博覧会」(2009年7月25日～8月2日)に高岡テクノドームで開催に出品しました。
芸文が生み出すジオラマには、史実に基づきながらも芸術らしい独創的なアイデアにあふれていました。

編集後記

作家の日垣隆氏は、著書『(検証)大学の冒険』の中で、『『地域の大学』を超えて『大学が地域をもつ』試みが重要になってきている』と述べています。すなわち、「地域をもっている」富山大学という視点に立てば「大学が地域にある」ことの意味がはっきりと見えてくるのではないのでしょうか。

今回のトムズPressVol.10は、「地域に生きる富山大学」を特集しました。編集の段階で、掲載したい記事がまだまだあることに気づき、富山大学が地域に深く根ざしていることが分かりました。この冊子が、「大学をもつ地域」と「地域をもつ富山大学」の相互理解と発展に少しでもお役に立つことができれば幸いです。(金森 寛)

トムズプレスサブタスクチーム

金森 寛 大学院理工学研究部教授
坂田 博美 経済学部准教授
服部 裕一 大学院医学薬学研究部教授
矢倉 隆之 大学院医学薬学研究部准教授
貴志 雅樹 芸術文化学部教授

- 本誌は、富山大学構内などで無料配布しています。郵送を希望される方は、本誌綴じ込みはがきにてお申し込みください。
- 本誌は、年4回、3カ月毎に発行します。ご意見、ご要望をぜひお聞かせください。



発行日 平成21年10月8日
発行 国立大学法人 富山大学
問合せ先 富山大学総務部広報グループ
〒930-8555 富山市五福3190 TEL076-445-6027 FAX076-445-6063
E-mail kouhou@u-toyama.ac.jp

Tom's Press はインターネットでもご覧いただけます。 <http://www.u-toyama.ac.jp/>